

# 平成29年度 学校自己評価システムシート ( 県立川越総合高等学校 )

|        |   |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 農・食・環境・生活を基幹とした総合学科の特性を活かし、感性を磨く中で人間力を高め、総合的な学力の定着と向上を図る。 |
|--------|---|

|      |   |
|------|---|
| 重点目標 | 1 授業改善に努め、基礎学力の定着と向上を図る。<br>2 基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、博愛と協調の精神を育む。<br>3 実践的な職業教育を推進し、将来に夢のもてる進路実現を図る。<br>4 地域と保護者への積極的な情報提供を行い、一体的な教育を推進する。 |
|------|---|

|     |   |             |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上)  |
|     | B | 概ね達成(6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し(4割以上) |
|     | D | 不十分(4割未満)   |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

|     |          |    |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者    | 6名 |
|     | 生徒       | 3名 |
|     | 事務局(教職員) | 8名 |

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学 校 自 己 評 価 |   |                        |  |   |   |     |  |
|-------------|---|------------------------|--|---|---|-----|--|
| 年 度 目 標     |   |                        |  | 年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )   |   |     |  |
| 番号          | 現状と課題   | 評価項目                   | 具体的方策  | 方策の評価指標   | 評価項目の達成状況   | 達成度 | 次年度への課題と改善策  |
| 1           | ・基礎的、基本的な知識及び技術の習得を重視し、生徒個々の要望に応え、総合的な学力の向上を一層推し進める必要がある。                               | 教育課程及び校内組織の見直しと授業改善    | ①教育課程改善へ向けた具体的な検討<br>②校務分掌及び委員会の組織編成の見直し<br>③わかる授業の推進と授業の質の充実                            | ①教育課程改善のための具体的な課題と方策の洗い出しがされたか<br>②次年度へ向けた実効性のある組織編成がされたか<br>③アンケートによる授業評価及び成績状況が前年度数値より高まったか   | ①教育課程の改善に向け、前年度より一歩進んだ内容を検討したが、決定するまでには至らなかった。<br>②校務分掌の改編を行い、次年度から実行することになった。<br>③授業評価のアンケート結果は前年度とほぼ変わらない状況であった。成績状況は確認中であるが、大きな変動は今のところない。                                 | B   | ・新学習指導要領を見据え、本校の進むべき方向性を再確認し、実効性のある教育課程を検討する必要がある。<br>・授業改善に向け、具体的な検討課題を設定し、年間を通して実施し、検証する必要がある。   |
|             |   | 基礎学力の定着及び総合的な学力の向上     | ①授業や家庭学習の充実<br>②資格取得の奨励<br>③外部との連携による実践的教育の推進  | ①授業満足度及び家庭学習時間が年度当初より増加したか<br>②各資格の取得級及び合格者数が向上したか<br>③外部教育力を活用した教育活動を充実できたか  | ①アンケートから授業満足度については、保護者・生徒で微増微減であり、昨年度と大きな変化はなかった。<br>②複数の検定で合格者数の合計数や上級合格者数が増加した。<br>③校外での農産物販売を通して、生徒の活躍の場を提供できた。  | B   | ・生徒の授業満足度を更に高めさせることや、家庭学習習慣の確立のため、検討組織を設け、具体的な手立てを講じる必要がある。<br>・将来につながる資格取得を学校全体で奨励し、受験者数や合格者数の更なる増加につなげる。                                       |
| 2           | ・規律ある学校生活と埼玉一揆のできる学校づくりを目指し、職員一丸となった指導体制の充実が必要である。                                      | 豊かな心の教育と安全教育の推進        | ①いじめ根絶に向けた組織的な継続指導<br>②生徒の実態を把握し、教育相談の視点に立った指導体制の充実<br>③埼玉一揆のできる学校づくりの達成状況の検証            | ①生徒・保護者の満足度が向上したか<br>②重点項目に対して、組織的な指導体制を確立し、成果として表れたか<br>③生徒アンケートや教員の自己評価により、日常的な揆揆の状況が向上したか  | ①いじめ防止を徹底した結果、未然防止や満足度の向上に繋がった。<br>②ネットトラブル防止や自転車安全に係る研修会などを企画し、年間を通し計画的な取組ができた。また、教育相談を重視した取組も行った。<br>③アンケートや日常的な立哨指導から、揆揆の励行が促進された。   | A   | ・現状に満足することなく、引き続き危機意識をもって組織的に取り組む必要がある。<br>・さらに教育相談体制を確立させ、生徒一人一人に対処可能な指導を行うとともに、安心安全な環境づくりを通し、心豊かな人間教育を行っていく。                                   |
|             |   |                        |  |   |   |     |  |
| 3           | ・継続的なキャリア教育を見据え、自己実現に向けた意識啓発と自発的な行動を育むとともに、実践的な職業教育を推進し、将来職業人として必要な意識とスキルを身に付けさせる必要がある。 | 信頼と期待に応える、開かれた学校づくりの推進 | ①ホームページの迅速な更新と積極的な情報発信<br>②屋外掲示板の有効活用<br>③校種を超えた交流の充実<br>④学校説明会等による学校理解の推進<br>⑤社会貢献活動の推進 | ①ホームページ閲覧数の対前年度比5%増<br>②掲示物の更新回数10回以上<br>③異校種間連携延べ10日以上<br>④説明会等の回数を前年度に比べ増やすことができたか<br>⑤ボランティア活動や地域貢献活動への参加者を前年度と比べ増やすことができたか<br>⑥学校評議員等兼学校評価懇話会の要望把握と実行 | ①閲覧数を前年度比で約4%増やすことができた。<br>②最新情報を掲示し、13回更新することができた。<br>③中学校や幼稚園等の連携を延べ17回実施した。<br>④説明会内容の見直し及び日数を半日分減したが、前年度と変わらない参加者を集めることができた。<br>⑤被災地ボランティアは内容を見直した結果、参加者は減少したものの、効果的に行えた。 | A   | ・川総の魅力をもっと高められるよう、HPの情報更新に力を注ぐ。<br>・中学校訪問や説明会内容を工夫し、効果的な募集活動を実施する。<br>・地域に根差した学校づくりを進め、地域との連携強化と広報活動を継続する。<br>・授業以外での活躍の場を引き続き生徒に提供し、体験を通して学ばせる。 |
|             |   |                        |  |   |   |     |  |
| 4           | ・地域に開かれた学校づくりを目指し、地域及び保護者から信頼され慕われる学校として、積極的な情報発信及び交流活動を推進する必要がある。                      | 信頼と期待に応える、開かれた学校づくりの推進 | ①ホームページの迅速な更新と積極的な情報発信<br>②屋外掲示板の有効活用<br>③校種を超えた交流の充実<br>④学校説明会等による学校理解の推進<br>⑤社会貢献活動の推進 | ①ホームページ閲覧数の対前年度比5%増<br>②掲示物の更新回数10回以上<br>③異校種間連携延べ10日以上<br>④説明会等の回数を前年度に比べ増やすことができたか<br>⑤ボランティア活動や地域貢献活動への参加者を前年度と比べ増やすことができたか<br>⑥学校評議員等兼学校評価懇話会の要望把握と実行 | ①閲覧数を前年度比で約4%増やすことができた。<br>②最新情報を掲示し、13回更新することができた。<br>③中学校や幼稚園等の連携を延べ17回実施した。<br>④説明会内容の見直し及び日数を半日分減したが、前年度と変わらない参加者を集めることができた。<br>⑤被災地ボランティアは内容を見直した結果、参加者は減少したものの、効果的に行えた。 | A   | ・川総の魅力をもっと高められるよう、HPの情報更新に力を注ぐ。<br>・中学校訪問や説明会内容を工夫し、効果的な募集活動を実施する。<br>・地域に根差した学校づくりを進め、地域との連携強化と広報活動を継続する。<br>・授業以外での活躍の場を引き続き生徒に提供し、体験を通して学ばせる。 |
|             |   |                        |  |   |   |     |  |

|                   |   |
|-------------------|---|
| 学校関係者評価           | 実施日 平成30年 2月 15日  |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒などへのアンケートを各学期で行うように工夫をして、より良い意見を吸い上げたり生徒の変容の分析に使ったりするなど、効果的な活用に向け検討してはどうか。</li> <li>・シラバスの工夫や予習してくるような授業展開を充実させ、学習時間の確保を図る取組が必要なのではないか。</li> <li>・上級の検定合格者が増えていることは素晴らしい。農業に係る資格も以前のように取得できるよう、情報発信してほしい。</li> <li>・学校が落ち着いていて非常に良い。満足度の向上や揆揆の励行も促進されており、継続して取り組んでほしい。</li> <li>・ネットトラブルに関しては、重大な事件も発生しており、生徒の情報モラル意識の啓発や事故の未然防止に、引き続き取り組んでほしい。</li> <li>・卒業生等に協力を仰ぎ、農家研修として毎年複数の生徒が参加しているのは良い取組である。せっかくであるので、学校としてこの研修を単位として認めてみてはどうかと考える。</li> <li>・今年度の進路状況を聞き、生徒の希望進路実現のため、引き続き様々な取組を通して指導してもらいたい。</li> <li>・生徒募集に関わる説明会について、内容を精査し、スクラップ&amp;ビルドをうまく取り入れながらも例年と変わらない人数が集まっていることは評価できる。</li> <li>・継続して被災地ボランティアを行っていることは非常に素晴らしい。また、新たな取組については今後の動向が楽しみである。</li> <li>・地域との連携を更に強化し、本校の特徴を活かした取組をより活性化させてほしい。</li> </ul> |